



日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会
 E-mail: nichiro@nichiro.org
 Home Page <http://www.nichiro.org>
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号
 Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



日本大使館より表彰状授与

千葉 麻里

8月に第20回日本文化交流団を終えての帰路、モスクワのトランジットで空港近くのレストランで日本大使館の山本敏生公使、青佐由香理一等書記官にお会いし、上月豊久特命全権大使からの当協会への表彰状を頂いてまいりました。そこには「貴殿はわが国とロシア連邦との相互理解及び友好親善に寄与しその功績顕著なるものがあります。ここに深甚なる敬意を表するとともに表彰します」と、あります。



2018」などで色々とお力添え頂いています。そのお陰で日本大使館からもお声がかかり、第16回ではバルナウル、ノボシビルスクへ、第17回ではリャザンと3回目のサラトフ訪問。19回目はサハリンの日本総領事館の依頼により3回目のサハリンでホルムスク、ドーリンスクも訪問したことは先月号に掲載しました。門倉主席領事のお陰でハバロフスク総領事館を訪問、ロシアの日本総領事館や大使館の皆様は何度となくお招きいただきました。

2007年5月に第1回日本文化交流団をハバロフスク、ウラジオストックで開催して12年、毎年継続して20回目になった今年、このような名誉のある表彰状を頂いたことはたいへん喜ばしい限りです。これには多くの方々の協力なしには実現しえませんでした。

第1回は当時のモスクワ放送ハバロフスク支局の岡田和也氏のご協力を仰ぎ、日本国総領事館副領事だった山下雅子氏やウラジオストック総領事館の手配で、学校や図書館、友好協会「すずらん」等できものや茶道のデモンストレーションをしました。第3回は益田常任理事の紹介で、ペテルブルグのエカテリーナ・エヴセエワさんと出会い、総勢12名できもの、活け花、風呂敷、和裁のワークショップ。ロ日協会のルイピン会長（故人）やニーナ・ツベトコワ事務局長、日本総領事館でもとても歓迎して下さいました。

それからは、日本に招聘されたロ日協会の方々との出会いや、その方の紹介などでワニノ、ペルミ、ヤクーツク、エカテリンブルグ、サラトフ、オレンブルグ、チェリャビンスク、クラスノダール、ネビヤンスク、ウスチラビンスク、カーメンスク、イルクーツク等、様々な都市を訪問しました。サハリンの当時の瀬尾総領事からの依頼で、ユジノサハリンスク、コルサコフへ、当時のハバロフスクの高橋総領事は森元副会長の紹介で、ハバロフスク以外にもチタ、ウランウデ、ヤクーツクを訪れる機会をいただきました。チタでお会いした井出敬二特命全権大使には、その後も「ロシアにおける日本年

ロシアには多くの友好団体があり、ハバロフスク「すずらん」のゾーヤ・ロイトマン氏、ワニノのナタリヤ・ソボレワ氏、サラトフのマリーナ・ジヤコワ氏にエカテリンブルグのマリーナ・ゴロミドワ氏、オレンブルグのリュドミーラ氏など日本を愛する人々と共にボランティアで頑張っています。どの街の人々との暖かい交流も忘れがたく、現在もその絆が切れることはありません。モスクワのターニャを始め各地の通訳も文字通り汗を流してくれました。現地の日本語の先生や留学生の皆さんとの出会いも思い出が沢山あります。

講習会はその後、折り紙、友禅、剣術、ちぎり絵、書道、編み紐、花ふきんやミニ浴衣、家庭料理、折り形（折り紙でない）と多岐にわたりました。また、航空券の手配等では旅行社の濱さんには随分無理をきいてもらいました。団長を勤めてくれた江守副会長や服部副会長には経済面でも援助していただきました。参加してくれたきもの仲間たち、第1回で活躍した長谷川理事、参加できないときも手作りのお土産を用意してくれた名島理事、複数回参加の矢葺氏や高野氏、松村氏、岩本常任理事、望月理事、山岸常任理事、今後の活躍も期待している渡邊理事や笠原氏…。この2年、どれだけ大勢の方々に支えられてきたことか！どれほど感謝しても足りません。そして、今後も一層努力していきたいと気持ちを新たにしております。本当に有難うございました。（常任理事）

お知らせ

●第11回懇親ロシア語合宿

日時：2019年9月22日（日）～23日（祝）
 会場：壬生町嘉陽が丘ふれあい広場
 集合：東武宇都宮線「壬生駅」タクシー乗り場に13:00
 講師：A. シゴルツォフ、T. スニトコ
 会費：会員16,000、一般19,000円
 テーマ：体育とスポーツ（運動ができる服装と運動靴持参）
 締切り：9月13日（金）詳細はHP、FBで。

●日口交流バーベキューパーティー

日時：2019年9月28日（土）11:30～15:30
 場所：八王子夕やけ小やけふれあいの里
 会費：会員/一般学生3,000円、一般3,500円など
 *お問い合わせ、お申し込みは協会事務局まで
 Tel : 03-5563-0626 nichiro@nichiro.org

●講演会

『日本とロシアの宇宙開発』講師 鶴間陽世氏（JAXA 職員）
 日本の宇宙飛行士はロシアのロケットで宇宙に飛び立ちます。日口の宇宙開発の歴史や技術、協力関係、併せて今回国民の関心と呼んだはやぶさの話題も語っていただきます。
 日時：9月7日（土）14:00～16:00（開場13:30）
 会場：日本記者クラブ（日本プレスセンタービル会見場9F）
 会費：会員/友好団体会員/一般学生1500円、一般2000円、
 会員学生/留学生1000円
 懇話会スタッフ募集：gene.masuda@s8.dion.ne.jp 益田
●ロシア語クラス生徒募集中！
見学希望の方は事務所までご連絡下さい。
 初級、中級、上級など月4回、5500円 x 3ヶ月分前納
 *0からクラスも新設します。

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております

まさか、そんな・・・

野口 久美子

7月上旬、アームレスリング・ザグレブ杯参加のため、(と言っても選手ではなく、団長サポートです!) クロアチアの首都ザグレブを訪れました。

私にとって旧ユーゴスラヴィアは、特別な思いのある地域です。クロアチアは91年から95年、民族問題に端を発する紛争で多くの国民が苦しみ、99年は、コソボで紛争が起こり、NATO軍が爆撃を行う事態に発展しました。99年当時、ロシア国営ラジオ局でアナウンサーをしていた私は、毎日の様にNATOの爆撃を非難するロシアのニュースを日本に向けて放送していました。しかし、誰も聞いていなかったように思います。遠い国の陰惨なニュース。思いを馳せる日本人が少ないのは、当然のことでした。今回の渡航も、20世紀の終わりに戦争をしていた遠い国、という暗い印象だった訳です。

さて、ザグレブのウェスティンホテルにチェックインしてみれば、窓の外は太陽が輝き、夏の緑が騒めき、スタイルもよくジーンズ姿のカッコいい地元の若者。聖母被昇天大聖堂の二つの塔は街を見下ろし、赤茶の屋根が美しい街の景観を損ねる高層ビルもありません。クロアチアのケーキ・クレムシュニテも上品で最高! 街には黒で統一されたインテリアがシックな、美味しい日本料理屋まであるじゃない。「東欧のおしゃれ観光地」。それが21世紀のザグレブです。

大会主催者のクロアチア連盟会長・サーシャは上機嫌で私達を抱擁し、「夏のザグレブを楽しんでってくれよ!」。彼は、と

てもロシア語が堪能です。

ザグレブ杯は、東欧・欧州の選手がメインです。障がい者の部も多く選手が参加していました。大会の最後はオープン戦、賞金を懸けて戦う、一番盛り上がるマッチがあります。

いざオープン戦を見に行こうと日本連盟団長とエレベーターに乗ったら、サーシャがいました。「おっ、クミコ、どう? 楽しんでる?」「勿論よー! ザグレブ、最高! 街もきれいだし、クロアチア料理も美味しいね! ワインは世界一よ。夫に頼んで、私が死んだらここで墓作るわ!」サーシャは大笑い。「そうそう、紹介するよ、こちら××の元『会長』××さんだよ。見に来て下さったんだよ」彼の隣に、落ち着いた色のスーツをお召しのにこにこ顔のおじいさんが。どこの連盟の会長さんかしら。聞き取れなかった。「どちら? どこの会長さん?」「だからあ、クロアチアの一、元『大統領』の一、ステイエパン・メシッチさんだっば!」「えっ?」。そう、英



偉大なるメシッチ元大統領よ!

語同様、ロシア語でも社長も会長も大統領も「プレジデント」。でもこの状況で、プレジデントを大統領だなんて、誰も、思わないじゃない…。2000年から10年もこのクロアチアを続べた、偉大なるメシッチ元大統領は、目の前で、死んだら墓を作りたい位この国が好きだと言った、愚かな東洋女の手を、厚く温かな両の手でがっちり握りしめてくれた…。まさか、かつての大統領だったなんて…。(理事)



春のマトリョーシカ展示会

千葉 麻里

6月24日(月)～25日(火)に恒例のマトリョーシカ作品展示会が秋葉原の「書泉ブックタワー」で開催されました。秋葉原は初めてですが、駅前景色も抜群。

今年は、ダルマ作家の真島正さんとのコラボです。マイヤさんのビーズ作品やロシアの小物、現地調達のコショロートも並び、なかなかの賑わいでした。

初日は岩橋理事の協力で9時まで延長。会員の方々や真島さんの知り合いの方々も訪れ、ダルマ製作を依頼するお客さんやロシアに興味のある方が覗いたりしました。マイヤさんが持参されたロシア料理の試食もあり、書店の担当者の平井さんたちにもおすそ分けしましたが好評でした。

2日目はエレナ先生の誕生日と重なって、みんなでシャパンを開けたりケーキを食べたり。平日のことで生徒さんたちの来場が少ないのはいつもながら残念でしたが、お客さんに作品の説明をしたり、ロシアについて語り合ったり。和気藹々と秋の展示会の相談をしながら2日間を無事に終えました。(常任理事)

●第64回マトリョーシカ絵付け教室

日時: 2019年9月22日(日) 13:00～16:00

講師: 菅野エレナ

場所: 田町駅みなとパーク芝浦「リーブラ」2階造形表現室

会費: 3,000円(お好きな教材1セット、お茶代含む)

*11月に第2回実演、体験ありの展示即売会あります。

板橋花火大会

日向寺 淳一

今年も恒例の板橋花火大会の鑑賞を8月3日(土)に行いました。ロシア大使館からは、家族連れなど20人、日口交流協会から5人を含めて25人が参加しました。

今年は、60年とあって大きな尺玉が数多く打ち上げられ、初めて観るロシアの方々や子どもたちからもひととき大きな歓声が上がりました。また、近くの女性たちがロシア人と写真を撮りたいとの要望があり、伝えると笑顔でいっしょにポーズを取るなど、微笑ましい日口交流の場面もありました。

今年も会場は、前日の金曜日から友人らにお願いをして、猛暑にめげず確保できました。来年は、オリンピックの影響で2ヶ月前倒しとなり、5月23日に決まりました。ぜひ、ロシアの方々といっしょに観たいと思っています。(常任理事)

お願い

NPO日口交流協会では、ロシアでの日本の伝統文化などの紹介、国内でのロシア関連の学習会、ロシア人とのイベント交流など幅広い活動を続けています。これらの活動を一層推進させるために皆様からのご寄付をお願い申し上げます。一口千円から、いくらでも結構です。

振込先: 郵便口座00160-66486、加入者: 日口交流協会
連絡先: 日口交流協会事務局 E-Mail: nichiro@nichiro.org
*野口久美子氏からご寄付を頂きました。ご協力が難うございます。

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております

イルクーツク紹介

ソフィア・ズイコワ

皆さま、はじめまして。イルクーツク国立大学大学院で勉強しているソフィアと申します。私は東シベリアのイルクーツクに住んでいます。中学生の頃から日本に興味を持っていて、イルクーツクで日本語を勉強することにしました。このおかげで日本のことをたくさん知りました。今でも大学生の時に体験した経験を大切に思っています。留学に来ていた人や、旅行に来ていた人とも話したことがあります。

以前、イルクーツクは日露関係において重要な役割を果たしていましたが、現在ではあまり知られていません。そのため、シベリアに来る日本の方に母国であるロシアのことをもっと上手く話せるようにガイドコースを卒業しました。その知識を使いイルクーツクやロシア人の日常について書こうと思います。

イルクーツクの歴史は1661年に設立。その年にはイルクーツクの最初の砦が建てられ、それから350年以上も経っています。イルクーツクは日本と長い歴史的な関係を持っており、1754年にイルクーツク市にロシア唯一の日本語学校が開かれ、3人の日本人が教師として働いていました。最初の日露辞典もイルクーツクで作られました。

現在、ロシア人の間でイルクーツクは学生の都市とよく呼ばれています。なぜかという、イルクーツクの大学は評価が高く、毎年イルクーツク州の町から多くの若者が入学に来ている



ロシア語入門書

藤本 信義

語学書マニアなのである。それで、数少ないロシア語関連書籍については出る本出る本、読む読まないにかかわらず買い込むようになった。初めて買ったロシア語の語学書はNHKロシア語入門。1981年、大学に入ってすぐ第二外国語でもないのに手に取った。その当時のロシア語教科書の選択肢と言ったら東先生か小沢先生の本か大学書林の4週間シリーズぐらいしかなかったと記憶している。

その後も大手の書店の語学コーナーでさえ、英・中・韓は別格として、ロシア語といえば他のヨーロッパ言語の片隅に数冊という状態が四半世紀は続いていただろう。それがである、このところ大変なことになってきている。今年の春には入門書がまとめて3冊も出たのだ。初版で3000部くらい刷るとしたら、一万部ぐらいのロシア語マーケットが出現した？ことになる。いくらプーチン大統領のカレンダーが大人気の日本とはいえ、これはどうして異常事態である。

というわけで、出たばかりの入門書3冊を読み比べてみた。黒田龍之介先生風に言うなら、-寝る前5分のロシア語-しばしお付き合い願えれば幸甚である。

①ティータイムのロシア語 (土岐、三神、佐藤) 白水社
作りは「ロシア語のかたち」「ロシア語のしくみ」といった入門前の本と、分厚い独習書の間立ち位置になる。見開き2頁で全23課。挨拶から始まり、品詞、格変化、動詞と各課ごとに文法事項と例文と単語で構成される標準スタイルだが、例文はタイトルに合わせてカフェやレストランでの会話に特化している。小さな本で情報が限られるのでこの本だけで学ぶというより、短期の講座のテキストとして使う、ラジオ講座等を聴講しながら副読本として読む等の使い方に合う。本文は全部で100ページなので、比較的短時間で通し読みできる。ティータ

からです。そのため、都市の雰囲気はいつも明るくて賑やかで、様々なイベントや祭、コンサートもたくさん行われています。町の中心に130区という場所があり、今、イルクーツクの中で若者に1番人気です。そこには、大きいショッピングセンターがあり、周りには色々な店やカフェ、バーなどがあります。

イルクーツクの観光地と言えば、バイカル湖が1番有名です。世界中でもよく知られており、毎年多くの観光客がバイカル湖を見るために訪れます。バイカル湖の沿岸では海洋性気候の特徴が見られ、バイカル湖の冬はイルクーツク市より暖かく、夏は涼しいです。冬にはバイカル湖が凍結します。氷の平均厚さは70センチから120センチ。非常に寒いときは氷の厚さは2メートルに達することがあります。これは人が安全に歩ける深さで、車でも走れます。氷の上でスケートもできますし、歩いてバイカル湖を横断するグループも多いです。

バイカル湖の自然を楽しめるための一番いい時期は夏と秋ですが、季節によってそれぞれの美しさが見られます。バイカル湖の美しさを理解するために一生が必要だと原住民のプリアート人たちは考えております。

もしこの記事を読んで少しでもイルクーツクに興味を持ったら、ぜひいらっしゃってください。

イムの話を中心にコラムの話題もカフェやお菓子の菫薔が満載。3名の著者は法政大学で教鞭をとられているとのことなので、ロシア語授業の中から生まれた小作品か。

②ゼロからスタートロシア語 文法編 (著者多数) Jリサーチ
英語関連のなかなかいい企画誌を出しているJリサーチ社の新刊。20代~30代の若手6人による、こちらも共著 (匹田先生が監修) である。短期間でまとまった本を仕上げるには共著というシステムがいいのかもしれない。全26課で例文、単語、文法解説、練習問題と正統的な構成だ。例文は各課4つ程度と絞っており、大きなフォントで読みやすい。2色刷りだが、赤色をうまく生かして語尾変化をわかりやすく表示している。文法編と銘打っているだけあって、文法の説明、例文、練習問題のバランスも良い。著者はそれぞれ別の学校でロシア語の教育に当たられているようだが、共通的な教科書として編まれたものか。Jリサーチ社が英語の語学書で培った編集・製本手法を生かして上手に仕上がっている。このあと、会話編、読解編などの続編を期待してしまう出来である。

③基礎からレッスンはじめてのロシア語 (柚木) ナツメ社
前2書が共著なのに対して、こちらはロシア語練習プリント (小学館) というユニークな本を出された柚木先生の第二弾である。しかもオールカラー! 中学校の英語教材では普通にある作りだがロシア語では初めて。柚木先生ご本人のかわいいイラストも満載。読んでいてうきうきしてくる。こちらは文法事項は最小限 (40ページほど) にとどめ、基本のあいさつ (ステップ2)、基本のフレーズ (ステップ3)、定番フレーズ (ステップ4) という構成。とにかく、「何かひとこと」言ってみる、そのための助けとなることを目指して書いたと前書きにあるように生きた表現がたくさん詰まっている本書は、ロシアに行く前に是非音読しておきたい、そんな魅力を感じさせる好著である。

皆様も書店に行かれたらぜひ手にとって見て欲しい。

ロシア連邦共和国紀行 (その2)

服部 文男

『チュヴァシ共和国』

チュヴァシの面積は18,300k㎡、四国と同じであり、人口約131万人、内68%がチュヴァシ人である。自動車工業、木材加工などの産業が盛んでロシア連邦の中では裕福な地域と云われている。首都はチェボクサル。湖に面したアレクシー・ニコライ広場で民族衣装を着た女性達に出迎えを受けた。民族衣装のカチューシャや胸飾りに沢山のコインが付けられていたが、ソ連時代のコインとのことであった。歓迎の儀式として大きな丸いパンと塩をいただき、その後、手をつないだ輪やトンネルを作り共に踊った。

湖の傍に立つ「チュヴァシ人の母記念像」は高さ16mもあり、両腕を大きく広げ民族を抱きしめるためと云われている。エカテリーナ2世も訪れたというヴヴェンデンスキー大聖堂は礼拝の時間で聖歌が流れていた。国立チュヴァシ博物館ではチュヴァシ人の昔の民族衣装や生活様式などが展示されていた。

翌朝、約350km先のモルドヴィア共和国サランスクを目指し約6時間の長距離ドライブがスタートした。

『モルドヴィア共和国』

今回の共和国巡りで聞いたことのある国名は、「モルドバ」だった。しかし「モルドバ」は、ウクライナとルーマニアの間に位置する独立共和国で、ロシア連邦の「モルドヴィア」とは文字も異なることがわかったが、これを発音でわかる日本人は相当のロシア通だと思ふ。モルドヴィアの面積は



26,200k㎡、四国の約1.4倍の広さで、人口約89万人、内40%はモルドヴィン人。首都はサランスク。どこかで聞いたことのあるという人はサッカーファンでないだろうか。2018年FIFAサッカー・ワールドカップ・ロシア大会で日本とコロンビアが対戦し勝利した会場のある街だ。

オレンジ色のモルドヴィア・アリーナのドームは街の中心街からもよく見える場所にある。午後3時近くにボルシチの昼食後、聖フョードル・ウシャコフ大聖堂(2006年完成、ウシャコフは19世紀の負け知らずの軍人で、2001年聖人に認定、献堂式にはプーチン大統領も訪れた。写真)、イオアン教会(1641年建造、サランスクでは最も古い建物でイエス・キリストが磔刑のときのいばらの冠と十字架の欠片が安置されているとのこと)、モルドヴィア・エルズビア美術館を見学した。

モルドヴィン人とロシア人の交流1000周年記念に造られた1000年広場には、今夕開催されるサッカー(ロシアではフットボール)ロシア対サンマルコの試合に向けて大規模なイベントと多数のサポーターの群れ。車は進入禁止され車止めにて大型ダンプトラックや大型建設機械で道路を塞ぐ方法がとられていた。ロシアの選手も私達と同じホテルで、入り口は厳戒態勢。試合の結果は9対0でロシアの圧勝だった。

次の日の早朝、約500km(約8時間)先のウリヤノフスクを目指し長距離ドライブを発車させた。(副会長)

北カフカス(コーカサス)のベゼンギ・キャンプ場

畔上 明

ロシア語を多少なりとも齧った方であれば「ラーゲリ」という言葉がソルジェニツィンの作品等から知り得る「強制収容所」といったソ連時代の負の歴史ばかりではなく、ピオネール・キャンプや大自然の中のリゾート地に点在する休息の場所をイメージすることが出来るかと思ひます。

ロシア北カフカスのカバルダ・バルカル共和国南部のジョージアと国境を接する手前には、4-5,000m級の山々に囲まれた登山ラーゲリ『ベゼンギ』があります。

カフカス山脈のこのベースキャンプ場は標高が2,200m、中央棟ホールにはWiFiも繋がるカフェがあり、水洗トイレやシャワーの備わったロッジが林立、既に60年の歴史を刻んでいることでロシア各地の山好きにはよく知られたラーゲリながら外国からの客はまだまだ、とはいえ、アリ所長を始め、洗濯場のサリハートさん、食堂で給仕をし、雑貨店、食料品店で店番をするリュウバさん、バルカル人の文化を紹介する「塔の博物館」の案内人でありサウナの準備もしてくれるリーリャさん、そして何より山岳ガイドのアダルビーさん、グーリャさん、アンドレイさん、ターニャさんといった多様な民族が交流するコミュニティと言えます。

2016年7月日本から訪れた山愛好家と共に私はそのラーゲリで1週間の山生活を体験したのです。

山歩きの初日、氷河が溶けて流れて滝となった丘を登れば、青、赤、黄と色とりどりの高山植物がふんだんに咲き誇る贅沢な景観に嘆息し、徐々に環境に慣れた頃には松林目指して山を下りてのキノコ狩り、或いは野イチゴ、ツルコケモ

モ、マリーナ、ブルーベリーなどを摘み取ることに夢中となる日々。

日を追うにつれ絶景に引き寄せられ、氷河を目指してモレーンを進み行けば霧に覆われ雨に当たり、急遽巨大な岩の陰で雨宿りをしながらコーヒーで暖を取りつつ弁当のバナナや林檎、チョコレートを食べる、そんな時もありました。

雨上がりの翌日、ベゼンギ氷河右岸のモレーンを、所どころ崩落しゴロゴロと積上がった落石箇所を廻り込むようにしてトレッキング。30分歩いては5分休憩というリズムを繰り返すにつれ足は次第に重くなり、巨礫が凸凹と重なる上を注意深く踏み締めた先、漸く土の上に足が届いて心が緩んだ途端、濡れた草に不意に足を取られてしまった私は滑って転び、不甲斐なく頭よりズルズル斜面を滑り落ちていったのです。

直ぐ後ろにいた70代の女性が落下する私の足に咄嗟に馬乗りとなってしっかりと支えてくれ、額と鼻の付け根からの出血していたところを押えてくれる手際の良さ。

山ガイドのグーリャが救急箱を開き、額2センチほどの切り傷とその下の傷を消毒し包帯をグルグル巻きにした応急処置を施してくれ、しばし休みをとった後にそろりそろりと下山。

その晩、コテージのドアを叩く音に目が覚めると、ラーゲリのアリ所長が携帯電話を持って飛込むや、モスクワの日本大使館が心配しているとのこと、何故?と驚くと『カバルダ・バルカル新聞』に貴方の滑落記事が出た、貴方はここでは有名人と告げられてしまったそんな顛末でした。

(「プロコ・エアサービス」シニア・アドバイザー)